

## 北海道新幹線並行在来線対策協議会 第10回渡島ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和5年12月27日（水）14:00～14:50  
場 所：渡島総合振興局（函館市） 〕

### 1 開 会

### 2 挨 拶

### 3 議 題

#### （1）将来需要予測・収支予測調査の精査について

事務局から資料について説明。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

将来の需要予測、並びに収支予測調査の精査という形で、ご説明させていただきました。ただいまの説明に関しまして、ご意見・ご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

協議会といたしましては、今後の社会情勢の変化、交通環境の変化、こういったものを見据えながら、今後は事務局におきまして、鉄道関連施設の精査などを引き続き進めていくこととしておりますが、いわゆるこの収支予測につきましては、皆様から異論がなければ、今回の収支予測調査の精査をもって、一旦、中間取りまとめとさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

##### 【函館市長】

今回ご尽力をいただき、取りまとめをしていただいたところであります。今、交通企画監からのお話もありましたように、鉄道の運行に関わりましては、JR北海道さんからの譲渡資産のさらなる精査でありますとか、新幹線の開業効果による観光需要の増などについて、今後一定の段階・動向を踏まえて協議・検討を行うこととされているところと認識しております。

かねてより、本市から検討すべき課題として提案していたものでありますので、一定の時期が来た段階で、改めての検討のお願いをしたいものと考えております。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

これからまたいろいろと交通環境の変化があると認識しておりますので、その点につきまして十分に留意した上で検討してまいりたいと思います。

それでは引き続き、次の議題に入らせていただきたいと思います。

#### （2）函館・長万部間のバス運行について

事務局から資料について説明。

##### 【北海道交通企画監（座長）】

函館・長万部間のバス運行のあり方の基本的な考え方などについて、ご説明申し上げました。わかりづらい部分もあるかもしれませんが、今の説明に関しまして、ご質問・ご意見がございましたら、承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

##### 【函館市長】

様々ご検討いただきまして、感謝申し上げます。

バス転換の検討に関わりましては、これまで函館市としては、函館・新函館北斗間の鉄路存続を主張してきているところでもありますので、函館・新函館北斗間のバス転換を想定していないところでもありますけれども、今回バス運行ルートやダイヤの検討にあたって、基本的な考え方などを整理していただきまして、今後、バス事業者さんとの具体的な協議を進めていくというご説明でありましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

やはり地域の実情を理解しながら実際に運行しているバス事業者、函館バスさんになりますけれども、そちらとの率直な意見交換を行ひながら進めていくことは本当に必要不可欠なことでありまひす。

また、近年、バス事業者をはじめ交通事業者においては、ドライバー不足という大きな課題も抱えておりますので、バス運行の検討におきましては、こうした課題もしっかり直視した上で、地域全体としてどうあるべきかを検討する必要があると考えております。

事務局を担っていただひている北海道さんを中心といたしませ、バス事業者や沿線自治体との情報の共有・意見交換など、密にしなごら進めていただひきたいものと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。

その他、ご意見等いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

今回のバス運行に係る収支予測の精査につきまひては、幹事会において検討を重ねてきた上でのバスルート・運行本数に基づいたものでありまひて、事務局としては現時点で皆様のご意見を可能な限り反映させていただいたと考えているんですけども、先ほど大泉市長からもありまひたように、非常に運転手が不足している中で、リアリティを持って本当にちゃんとしたものが出来ていくのかというようなご心配もあろうかと思ひます。

我々も、皆さんや事業者さんと一緒になごて、広域の地域公共交通計画を作っておりますので、そういったものもしっかりと有効的に活用しながら、議論を進めてまいりたいと思ひます。

今回まとめた地域としてのバス運行に向けた考え方などについてでございますけれども、繰り返しになりますが、渡島・檜山地域の広域的かつ基幹的な乗合バス事業者であります函館バスさんと、この検討を加速していきたいというふうにご考えております。バス事業者さんとの具体的な議論に入るということで、一層、地域の実情に配慮した検討を進めていきたくひと、こういった趣旨でございます。

特に、私どもの考えに異存がなければ、バス事業者との協議に入っていきたくひと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

次の次第になりますが、先般、鉄道物流のあり方に関する検討を始めませ、2年かけて結論を得ていきたくひということで、今日は物流担当局長が出席しておりますので、参考までに私どもが今協議している状況などにつきまひて、情報提供させていただきたいと思ひます。

## 4 その他

### 情報提供（北海道新幹線延伸に伴う鉄道物流のあり方に関する検討状況について）

北海道交通政策局物流担当局長から資料について説明。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

鉄道物流の有識者会議の検討状況については、また必要に応じて情報提供させていただきたいというふうにご思ひております。

以上で本日の議題についてはすべてとなりますが、今後も皆様からの要望なども踏まえながら協議を進めてまいる考えではございますけれども、今日の時点で何か特にご意見等があれば、お伺ひしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

**【八雲町長】**

やっとなですね、議会や町民に説明できる資料が出てきたと思っています。

当初、2030年度の5年前に方向性を決定するということでしたよね。令和7年度に決定すればいいということですか。令和7年度とすると、我々は来年から議会や地域住民との意見交換をしながら、町としての考えをまとめていく段階に入ってくると思うんですよね。令和7年度のどのくらいかはまだはっきりとしませんかね、いつ頃までに結論を出すということが。分かれば教えていただきたい。

**【北海道交通企画監（座長）】**

鉄道物流についてもこの並行在来線対策協議会についても、今一つの目途として開業5年前ということになっております。ご存じのとおり新幹線の開業についての報道がなされておりますけれども、今日たまたまタイミングが同じで、新幹線の技術的な検証についての有識者会議が開かれております。

昨年の10月に、2030年度に向けて開業を目指すという国交大臣の会見がございましたので、我々は今のところ令和7年度末を目途にこの検討を進めるという姿勢は変わっておりません。

ですから、2年が長いかわり短いかわりそれぞれご判断があるかと思いますが、町の皆さんの意見の反映の作業とか、地域によって事情が違うと思いますので、出来る限り同じメルクマールに向けて作業が進められるように、情報提供していきたいなと思っています。

現時点では、2025年度を目途に進めていきたいと考えております。

**【八雲町長】**

令和7年度中に方向性を決めて、バスにするのか、それとも在来線を第三セクターで運行するのかを決定するというところでよろしいですか。

**【北海道交通企画監（座長）】**

そのように考えております。なぜ5年前かという、会社を立ち上げるための準備作業というのがありまして、道南いさりび鉄道を立ち上げたときに、資産の精査ですとか会社の体制、それからそれらに対するもろもろの作業が発生します。我々の道庁の中にそういった三セクを立ち上げるチームを作って作業をしていくわけなんですね。そういう意味で、5年程度を目安に方向性をいただけたらとの趣旨でございます。絶対5年というわけではないんですけども、我々の今までの経験則からいくと、5年前にはこういった作業に取りかかる必要があると考えております。

**【八雲町長】**

それははっきりしておかないと。我々も地域住民や利用者の方々との意見交換をしながら、町としての意見を決定していくと。しかしながら、各町の意見もありますので、それらを統合してですね、バスにしようか、それとも在来線を第三セクターにするかを決めると思うんですよね。

我々としては、来年度から地域で考えながら1年から1年半くらいかけて町としての意見をまとめて、またこの場なのか幹事会なのかで意見を揉みながら、決定をしていくことになるんだろうと思っています。

令和7年度中ということではよろしいですね。

**【北海道交通企画監（座長）】**

現時点では、令和7年度中ということに変わりありません。今、渡島総合振興局を中心に、地域の公共交通計画も策定しております。そういった広域の計画との整合性も出てきますし、先ほど申し上げたバス事業者さんとの具体的な議論も出てきますので、そういったものを各地域の自治体の皆さんの意見をうまく取り入れられるようにしていく、そういった合わせていく作業も発

生してくると思いますので、精力的に幹事会なども利用しながらしっかり整理していければと思っています。

#### 【八雲町長】

ありがとうございます。

バス転換をするときに、初期投資に入っているかどうかはつきりしませんが、たぶん今までのようなバス停や待合所ではダメだろうと思っています。我々は国道5号線なので、車の行き来が激しいということになれば、やはり道路を少し拡張し、安全性が守られている状況でバスに乗るということになるんだろうと、そういうことが盛り込まれるようにして欲しいという意見とですね、もう一つ、先般、私も汽車に乗りましたら、乗客の6割、7割がインバウンドの客、観光利用のお客さんが多いのではないかと、そういう意識があるので、函館・長万部間には大沼という観光を抱えていることを考えると、この普通列車の鉄道を存続するという、先ほど大泉市長から話がありましたけど、観光という面でも鉄道を残すということも意義があるんじゃないかと感じているところでありますので、その辺も加味して欲しいと思っています。

それともう一つは、今我々は車を運転してお客さんを運ぶというスタイルですけど、先般、2050年までの人口推計が出ましたけれども、どこかの時点でこういう方式がガラッと変わる時代が、5年後なのか10年後なのか私はちょっと想像できませんけど、函館・長万部間のこれから公共交通を考えていったほうがいいんじゃないかと私は思っているんですよ。今テレビとか報道を見ると、バスや乗用車の自動運転などが進んできていますので、その辺の考え方も取り入れながら、北海道の方で研究してですね、我々に情報をいただければなど。これからの公共交通の判断も我々のほうでもしやすいということで、お願いしたいと思います。

#### 【北海道交通企画監（座長）】

ありがとうございます。まずバス停の安全性などにつきましては、まさに公共交通の安全が第一でございますので、この点につきましては今札幌市内もバスターミナルが一時的に各地に配置されて、不安に思っている方や外国人の方がなかなかバス停に辿り着けないとか、そういった問題も道庁の前でよく見かけることもあります。ですから、安全性に関しては、誰が何と言っても最優先にされる課題だと思いますので、そういったインフラのことも今後しっかり議論していかなければならないと思います。

インバウンドなど観光面については、まさに人口減少で過疎化が進む中で、公共交通の役割が大切な要素となってきます。特に今は冬の観光で多くの外国人観光客がいらっしやっています。公共交通を利用されている方、特に冬場はインバウンドに関しては非常に多くなってきていますし、今は特急北斗も増両して運行している状態でございます。こういった点も今後の地域交通を支える上で、非常に重要なファクターであり、こうした観光目線もしっかり見据えていかなければならないと考えています。

人口問題研究所が発表した数字ですが、非常に衝撃的なものでございました。我々の地域はどうなるんだろうという不安があると思います。ただやはり、公共交通がなくなってしまうと地域に住めない、生活が出来ないということになってしまいますので、先ほど言われた長期的な視点、どうやってこの地域を守っていくんだという視点も、併せて検討していくことになるのかと。その中では、先ほどちょっと申し上げました、振興局が作っている広域の計画がございますので、そういったところもしっかり落とし込んで、安心して暮らせる地域交通をどう作るかというのは、事業者の方も含めてしっかり議論していく必要があると考えています。非常に重要な視点だと思いますので、今後の議論をしていく上でも、しっかりと取り込めるようにやっていきたいと思っています。

### 【長万部町長】

今回の収支予測の資料の中で、ちょっと欠けている部分があると思うので一つだけ。JR北海道の見解やJR北海道との交渉の内容などの情報が入っていないんですね。それは今後、少し厚みを乗せて情報を共有していただければありがたいと思います。

### 【北海道交通企画監（座長）】

JR北海道とのやり取りは普段からやっているつもりではありますが、分かりづらい部分があったと思いますので、今後、幹事会等でも様々な議論が出てきますので、機会をしっかりと捉えてそういった意見を取り込めるように、分かりやすく発信できるように努力したいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

### 【鹿部町長】

進めるにあたって北海道さんから話がいただいたとおり、あらゆる方策について具体的に協議を進めていただくということで、そのとおりやっただけかなと思っているところでございます。

ただ、八雲町さんから話があったとおり、当町もいざバス方式となると、道路の不安などがあるものですから、道路のところもきっちり入れる（整備する）とか、また、学校の通学が当町では一番の課題となるのですが、地域と学校のあり方とか、そういったところも含めて考えていかなければならないと思っています。

5年前に方向性を決定して、5年後に運行するということなので、今までのオルタナティブ（代替性）的な考えではなく、今の技術革新やそのスピード感を踏まえれば、本当にそういったスケジュールで大丈夫かという不安も少しありますが、最初の会議でも言わせていただきましたけれども、利便性が向上するような、新しいものになるんだと発信しながら、システムの構築をしていただきたいなと思っているところです。

### 【北海道交通企画監（座長）】

住民の方からすると、利便性の向上の声があり、なかなか厳しい状況もあるんですけども、例えば、デマンド交通に関してもAIデマンドも導入し、実験している自治体等もありますし、様々な状況がこれからも変化してくると思いますので、その変化に遅れないようにフィットできるように、ゼロカーボンなども含めて検討していかなければならないと思っています。

今後も幹事会、それから函館バスさんとの検討・協議なども進めていくことになります。その時にはまた具体的にご相談する場面も多々出てくるかと思っておりますので、本日は今の時点での我々の考え方をお示ししたということで、今回の会議をもって中間取りまとめとさせていただきたいと思っております。

また、八雲町さんからも話がありましたが、開業5年前を目途にしっかりと検討を深めていく必要があると思っています。

地域の交通のあり方を考えるにあたっては、鉄道方式においては、JR譲渡資産の取扱い、鉄道運行のために必要な業務体制や人員の確保、また、バス方式についても、今後バス事業者を交えた検討を進めるなど、適切な対応を図っていくことが必要だと考えております。

次回のブロック会議の開催については、今後、沿線の皆様方からのご意向などをしっかりと踏まえて調整を図ることになりますけれども、引き続き、まずは幹事会を通じて地域交通の確保の対策の検討をしっかりと進めてまいります。

また、繰り返しになりますが、今、振興局を中心に、広域的な公共交通計画の策定を進めているところでございまして、渡島・檜山エリア全体における交通モードの選択、路線の最適化の検討もしていくことが必要と考えております。

こういった点も含めて幹事会で今後もお世話になりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

**【鹿部町長】**

一つ質問をし忘れてしまったのですが、貨物が走っている線区で、その上を旅客が走らない事例は全国的にあるのでしょうか。

**【北海道並行在来線担当課長（事務局）】**

今回の海線のように、これだけの貨物が走る区間の中で、旅客が走っていない区間というのは、並行在来線の事例ではないはずです。臨海鉄道といった別の系統のものがありますが、このような並行在来線の形で旅客をやめて貨物のみ走る事例は今のところ全国的にはないと聞いています。

**【北海道交通企画監（座長）】**

それでは、事務局にお返しします。

**【北海道並行在来線担当課長（事務局）】**

以上をもちまして、北海道新幹線並行在来線対策協議会第10回渡島ブロック会議を終了したいと思います。皆様、お忙しいところありがとうございました。

**5 閉 会**

以上